

暗唱のすすめ へ近代文学編⑥ へ

富嶽百景

太宰治



三七七八米の富士の山と、立派に相對峙し、
みじんもゆるがず、なんと言うのか、金剛力草
とでも言いたいくらい、けなげにすくと立
っていたあの月見草は、よかった。富士には、
月見草がよく似合う。

走れメロス

太宰治



メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王
を除かなければならぬと決意した。メロスに
は政治がわからぬ。メロスは、村の牧人であ
る。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。け
れども邪悪に対しては、人一倍に敏感であっ
た。